

フェミニスト経済学と その最新課題

金融排除／包摂のジェンダー分析

2023.11.30.Thu.
18:30-20:00

オンラインによる開催
事前申し込み制



←お申し込みはコチラ
定員:1,000名／締切:11月26日(日)
<http://s.rikkyo.ac.jp/0377c63>

講師：

足立 眞理子氏

お茶の水女子大学名誉教授。お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科教授、お茶の水女子大学ジェンダー研究センター長、日本フェミニスト経済学会代表幹事（初代）などを歴任。最近の著作として、「ローザ・ルクセンブルク再審—新しい収奪の形態をめぐって」『思想』第 1148 号（2019 年）、「アベノミクスにおける金融緩和とジェンダー」『経済社会とジェンダー』第 3 巻（2018 年）、「フェミニスト経済学の現在—『金融化とジェンダー』をめぐって的方法的考察」『季刊経済理論』第 53 巻第 3 号（2016 年）、「金融排除／包摂とジェンダー—金融化された経済へのフェミニスト政治経済分析」『ジェンダー研究』第 19 号（2016 年）などがある。

フェミニスト経済学は、人間は合理的な選択を行なうとする仮説を持つ主流派経済学をその前提から批判し、経済学の再構築をジェンダー視点から目指すものである。近年、同分野では分析対象として、生産・再生産領域に加えて、「金融領域」が注目を集めている。こうした傾向は、かつては信用市場から排除されてきたマイノリティや女性への略奪的貸付による被害が深刻化した、2008 年のグローバル金融危機以降に顕著になった。日本でも、アベノミクス以降の金融緩和政策が続く中、様々な金融商品の開発による女性の（過剰）包摂が進行し、パンデミック下での金融関連詐欺によって負債を抱えるなどの問題が多発している。その一方で、政府による「貯蓄から投資」への呼び声のもと、若年層を含む金融行動の変化が起きようとしている。以上を踏まえ、本講演会では足立氏にフェミニスト経済学による金融排除／包摂のジェンダー分析の流れについてご講義頂いた上で、近年の日本の状況についてお話し頂く。